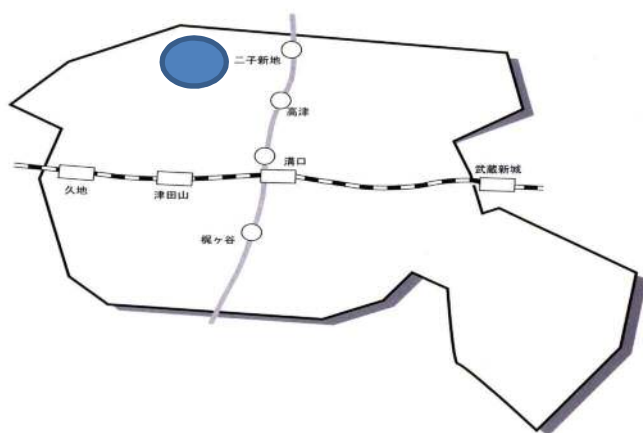


## 久地第2町会高齢者見守り活動連絡会

～老人クラブ友愛チームを核とした、地域、専門職の高齢者見守りネットワーク～

### 1 町の概要



高津区の北西部、「かすみ堤」と平瀬川に囲まれた地区で、以前は「かわなべ」と呼ばれていた。地面を少し掘ると砂が出てくるため、田んぼには適さず、かつては畑が広がっていた。

町会には子ども会、婦人部、老人クラブ（会員数 86 人）、ソフトボールチームがあり、久地神社の祭礼、防災訓練、桜祭り等の地域の催しが開催されている。また「かすみ堤」を保存する運動や、一人暮らし会食会も行われている。

【DATA】（久地2丁目 平成27年9月末日現在）

- 世帯数 1,235 世帯
- 人口 2,486 人
- 高齢化率 16.7%（高齢者人口 415 人）

### 2 見守り活動が生まれたきっかけ

#### ○ 徘徊で困っている高齢者が…

久地第2町会にある老人クラブ「久地いきいきクラブ」では、通学途中の小学生の見守りのため、交差点で交通整理を行っている。4年前に、活動場所の近くで家に帰れなくなっ

ていたおばあさんを発見した。しかし誰もおばあさんのことを知らず、町会名簿で確認して、やっと家に送り届けることが出来た。

#### ○ 老人クラブ以外で高齢者を支える仕組みが必要

高齢者が地域で暮らすのに、少しでも手助けがしたいし、孤立死も出さないようにしたいが、友愛チームが把握していない高齢者がおり、友愛チームの活動だけでは不十分だと感じた。

### 3 活動立ち上げの準備

#### ○ 樹の丘地域包括支援センターに相談

活動を始めるにあたり、まず樹の丘地域包括支援センターに相談し、協力を依頼した。

樹の丘地域包括支援センターでは、それまで包括のエリア全体（中学校区程度）のネットワークづくりを進めていたが、災害時等にも有効に機能するネットワークを作るために、町会程度の範囲でネットワークを展開していきたいと考えており、このような相談をいただいたことは、大変ありがたかった。

#### ○ 町内会、老人クラブとの連携

久地いきいきクラブでは、定例会のほかに映画会、卓球、コーラス、おしゃべり会等の活動を毎週のように行っており、見守り活動の必要性について、クラブ内の合意はスムーズに行えた。

次に高齢者がどこにいるのかを把握するために、町会にアプローチをした。久地いきいきクラブの中心人物は、町会の役員も兼ねており（老人クラブ会長は町内会の副会長。友愛チームのメンバーは理事。）、スムーズに連携することが出来た。災害時要援護者避難支援制度の対象者を把握したが、数は少なかった。町会では70歳以上の方に長寿のお祝いを渡しており、その対象者170人程を把握していた。

#### ○ 民生委員、会食会との連携

民生委員はひとり暮らし高齢者等実態把握調査の対象者を把握しているが、介護サービスを受けている人は調査対象となっていない。わかたけ会（会食会）にも情報提供を依頼したが、すべての対象者を把握することはできなかった。

#### ○ 見守り活動の立ち上げへ

そこで高津区役所に情報提供を依頼したが、個人情報保護を理由に提供は受けられなかった。そのため対象者の情報は、活動していく中で把握することとした。

見守り活動を立ち上げるにあたり、個人情報の扱いなど意見を言う人もいたが、活動そ

のものを否定する人はいなかった。町内会では派閥争いなど、大きな争いはない。

町内会、老人クラブの定例会では、見守り活動の報告を行っている。

#### 4 地域練り歩きによる見守り



地域、包括、区役所等で3、4名の  
見守り隊をつくり、高齢者宅を事  
前連絡なしに訪問している。

この活動の特徴は、見守り隊による地域練り歩きで、高齢者を見守るという方法である。中心となる老人クラブのメンバーは、友愛活動をしていたため、訪問に抵抗感はなかった。事前に訪問の了解を得ようとする、相手が遠慮してしまうので、事前連絡なしに訪問しているが、好意的に受け止められており、これまで訪問への拒否はない。年2、3回リストアップした高齢者を訪問している。

#### ○ これまでの活動の経過

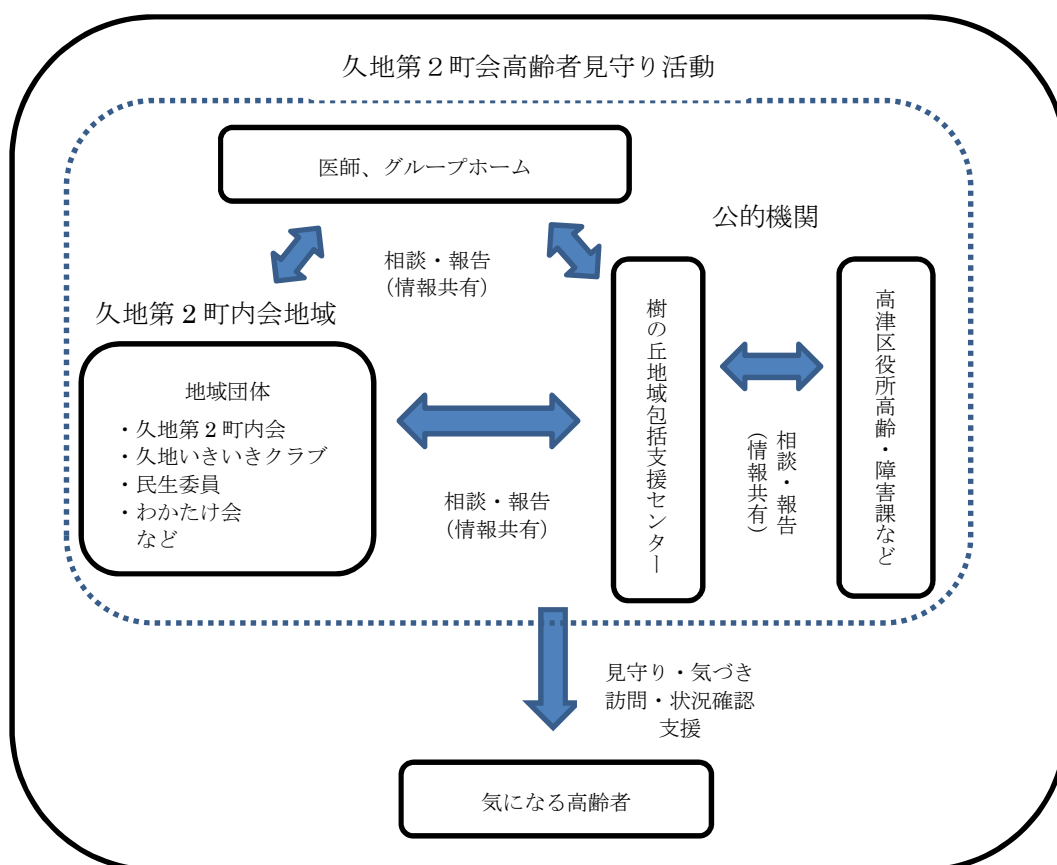
- ・ 第1回見守り活動連絡会（H24.7.19）  
発足の経緯の報告、各機関の見守り活動報告、地域と公的機関の連携のイメージの共有
- ・ 認知症サポーター養成講座（H24.11.12）
- ・ 第2回見守り活動連絡会（H24.12.12）  
個人情報取り扱いの取り決め、事例検討（徘徊高齢者の支援）、マップ作り検討
- ・ 第3回見守り活動連絡会（H25.7.9）  
今後の取り組みの検討
- ・ 「見守り隊」による地域練り歩き（H25.10.15、12.2、12.16）  
地域の気になる高齢者と、災害時要援護者避難支援制度の登録者の訪問を行った。
- ・ 第4回見守り活動連絡会（H26.1.17）  
訪問の振り返り、マップ作り

情報シート上、青（心配ない）、黄（少し気になる）、赤（集中的支援）で見守り頻度の色分け。

- ・第5回見守り活動連絡会（H26.7.14）  
情報シートの整理の仕方、今後の見守り活動、今年度の見守り対象
- ・第6回見守り活動連絡会（H26.12.11）  
黄レベルの方の訪問と情報共有、今後の見守り活動
- ・第7回見守り活動連絡会（H27.6.9）  
黄レベルの方の訪問と情報共有、今後の見守り活動
- ・第8回見守り活動連絡会（H27.9.8）  
黄レベルの方の訪問と情報共有、今後の見守り活動

## 5 活動メンバーの拡大

～地域・公的機関・専門職の連携のイメージ図～



町内会、民生委員、老人クラブ、会食会に加え、包括、区役所で見守り活動連絡会を立ち上げた。メンバー選びに際して、連絡会で把握した情報を外に漏らす可能性がある人はメンバーに入れられないなどの理由で、苦勞することはなかった。

## ○ 医師やグループホームも活動メンバーに

その後 26 年度からは医師が加わり、医療的なアプローチが出来るようになった。27 年度からは地域のグループホームの職員も活動に加わるようになった。

## 6 個人情報の取り扱いについて

個人情報については、原則として本人もしくは家族の合意のもと情報共有する。見守り対象者の情報シート、マップについては見守り活動連絡会の会長が管理し、個人情報はコピーをしないなどのルールを設けている。見守り活動連絡会は地域包括ケア連絡会議（地域包括支援センターが主催する、高齢者の実態及び地域課題の把握並びに解決等を図ることを目的とした会議）の位置づけで開催しているため、会議で知り得た個人情報は口外しないように、出席者には「出席者名簿兼個人情報保護確認書」の提出を求めている。

## 7 活動していてよかったと思うこと

訪問する中で、相手の気持ちに変化が現れ、前向きになってくる。気持ちが後ろ向きになると、体も衰えてしまうので、よかったと思う。

また地元の人間だけでなく、専門職が入ることで、必要なサービスに繋げることが出来た。

## 8 今後の課題・目指す姿

- ・相手の話をしたいという気持ちに応えられるよう、聞き上手になりたい。
- ・サービスの橋渡しが出来よう、介護サービスなどの勉強会を開催して、一定の知識を得ていきたい。
- ・訪問回数を増やしたり、対象者の掘り起こしをしたり出来ればよいとは思いますが、負担が大きくなってしまう。
- ・調子の悪い人の所に、随時訪問するという方法も考えられる。